



第17回

ガイア フィルハーモニック クワイア

定期演奏会

Gaia
Philharmonic
Choir

2021 12.26 sun.

銀座ブロッサム 中央会館ホール



GREETING ご挨拶

皆さま、クリスマスおめでとうございます。

降誕節の喜びの中で、こうして演奏会を開くことができることに、特別の喜びを感じています。

と、申しますのも、前回の定期演奏会は、前年度とはいえ今年の1月でしたから、今年はコロナ禍にめげず、ガイアは2回の定演をこなすことになるのです。不安な世の中であって、歌うことを貫き通したメンバーの情熱に、まずもって敬意を表したいと思います。このような合唱団は、他にあまり例を見ないのではなからうかと思えます。

今年は、メンバーが大きく入れ替わり、特に女声部は全く新しい合唱団、と言ってもいいほどの入れ替えがありました。歌う方も、声をまとめる側もそれ

なりに苦労しましたが、私にとっては、今年は特に多くの勉強をさせてもらったと思っています。メンバーの声、歌い方のクセをどう活かすか。そして、メンバー一人ひとりをどう育ててゆくか。児童合唱団に接するように、私はこの合唱団とも付き合ってきたつもりです。

コロナ禍だから不自由なことはたくさんあります。しかし、コロナ禍だからわかったこと、気づいたことも数多いです。クリスマスシーズンの真っ只中である今日、ガイアのメンバーとともに、愛と慈しみを心を込めて歌いたいと思います。

どうぞ最後まで、ごゆっくりお楽しみくださいませ。

音楽監督・常任指揮者 松下 耕

年の瀬迫るお忙しい中、本日は Gaia Philharmonic Choir 第17回定期演奏会にご来場いただき誠にありがとうございます。

昨年に引き続き新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けながらも、今年は合唱界にも徐々に歌声が戻ってきていることを感じております。ガイアとしても今年度は東京都合唱祭、軽井沢国際合唱フェスティバル前夜祭と2度の演奏機会を経て本日を迎えられることに感謝いたします。

本日の演奏会では、さまざまな「愛」を歌います。人を愛するとはどういうことなのか、その本質を追い求めることは人間にとっての永遠のテーマの一つです。キリストの愛もあれば人への無償の愛もあり、愛に苦しめられることもある一方、幸福や平和も享

受します。人と人との繋がりが希薄になりつつあるこの世の中で、人を愛することの喜びを本日分ち合えましたらと思います。

最後になりますが、この一年間団員の音楽活動を支えてくださったご家族の皆さま、演奏会スタッフとしていつもこちらの信頼に完璧に応えてくださる耕友会の皆さま、素晴らしいピアノを奏でくださるピアニストの前田勝則先生、そして、いつも私たちを丁寧根気強くご指導くださる松下耕先生に深く御礼申し上げます。

本日は短い時間ではありますが、心温まる時間をお過ごしいただければ幸いです。どうぞ最後までお楽しみください。

Gaia Philharmonic Choir 団長 中村 俊幸

PROGRAM プログラム

1st STAGE クリスマスに寄せて — 歌い継ぐ名曲 —

Ave Maria in D b	作曲 松下 耕
O magnum mysterium	作曲 Tomas Luis de Victoria
Ubi Caritas	作曲 Maurice Duruflé
Hodie Christus natus est	作曲 Francis Poulenc
Hymne à la Vierge	作詩 Roland Bouhéret 作曲 Pierre Villette

2nd STAGE Edition ICOTより — これから歌いたい名曲 —

旗	作詩 四元 康祐 作曲 森山 至貴
T-Outua	作詩 アイロニム イクサーニム 作曲 山下 祐加
混声合唱のための「四季のうた」より はる — はつとすはる	
あき — あいするきみの	作詩 みなづき みのり 作曲 松本 望
Hinageshino Hanabirano yóni	作詩 えびはら みなみ 作曲 松下 耕
あなたと一緒になにかしたい (初演)	作詩 山崎 修平 作曲 名田 綾子

3rd STAGE

混声合唱とピアノのための組曲
「ある真夜中に」
作詞 | 瀬戸内寂聴 作曲 | 千原 英喜

1. 愛から悩みが生まれ
2. この星に生まれて
3. 寂庵の祈り
4. ある真夜中に

1st Stage

クリスマスに寄せてー歌い継ぐ名曲ー

Ave Maria in D \flat

アヴェマリア

曲 | 松下 耕

Ave Maria, gratia plena,
Dominus tecum,アヴェ、マリア、恵みに満ちた方、
主はあなたとともにおられます。benedicta tu in mulieribus,
et benedictus fructus ventris tui Jesus.あなたは女のうちに祝福され、
ご胎内の御子イエスも祝福されています。Sancta Maria mater Dei,
ora pro nobis peccatoribus,
nunc, et in hora mortis nostrae.
Amen.神の母聖マリア、
わたしたち罪びとのために、
今も、死を迎える時も、お祈りください。
アーメン。

解説

2015年、大阪で開催された「第2回大学合唱コンペティション & コンベンション」課題曲として作曲された。変ニ長調という深みのある調性によって、聖母マリアの慈しみや愛情が表現されている。中間部では冒頭のメロディーが再現され、原罪の自覚と救いを求める祈りが半音高いニ長調にて高らかに歌われる。50小節に満たない大変短い曲であるが、マリアへの憧れが込められたハーモニーは聴衆の心を解かずだろう。

O magnum mysterium

大いなる神秘

曲 | Tomas Luis de Victoria

O magnum mysterium
et admirabile sacramentum,
ut animalia viderent Dominum natum,
jacentem in praesepio.おお、大いなる神秘、
そして、驚くべき秘蹟よ。
かい葉桶に横たわる生まれたばかりの主を、
動物たちが見るとは。O Beata Virgo,
cujus viscera meruerunt portare
Dominum Jesum Christum.
Alleluia!おお、祝福されし処女マリアよ。
その純粹なるあなたの母胎は、
主イエス・キリストを宿すにふさわしいのです。
アレルヤ!

解説

ヴィクトリアは16世紀スペイン生まれの作曲家である。神の子が生まれたとの知らせを受け半信半疑で集った人々が、やがて奇蹟を確信する様がポリフォニーとホモフォニーの繰り返しにより描かれる。そしてイエスの母マリアへの祝福が告げられたのち人々の祈りは最高潮に達する。喜びと安堵、そして確信に満ちた「アレルヤ」によってイエスの誕生が世界に告げられる。

Ubi Caritas

慈しみのあるところ

曲 | Maurice Duruflé

Ubi caritas et amor, Deus ibi est.
Congregavit nos in unum Christi amor.
Exultemus, et in ipso iucundemur.
Timeamus, et amemus Deum vivum.
Et ex corde diligamus nos sincero.いつくしみと愛があれば どこにでも
神はそこに共にいる。
キリストの愛に結ばれ
その喜びを分かち合い
おしみなく仕えあおう 心から神をたたえて

Amen.

アーメン

解説

デュリュフレは20世紀フランスの作曲家、オルガン奏者である。「グレゴリオ聖歌による4つのモテット」内の1曲。楽曲を通じてグレゴリオ聖歌のモチーフが繰り返されるが、最大4声の男声パートで構成された和音がアクセントとなり推進力を生み出している。中間部では変ホ長調から抜け出し短調、へ長調、変ロ長調へと目まぐるしく展開するが、再び変ホ長調へと収束する。仮想空間で多くの人と関わりながら居場所を見出せない、現代人の心に沁みる一曲。

Hodie Christus natus est

今日キリストはお生まれになられた

曲 | Francis Poulenc

Hodie Christus natus est
Hodie Salvator apparuit,
Hodie in terra canunt angeli,
Laetantur archangeli,
Hodie exultant justi, dicentes:
Gloria in excelsis Deo,
Alleluia今日 キリストはお生まれになられた
今日 救世主が現れた
今日 地上で天使たちが歌い
大天使も喜びにむせぶ
今日 正しき者は讃え 語るのだ
いと高き神に栄光あれ
アレルヤ

解説

20世紀フランスの作曲家プーランクの代表的な合唱作品「クリスマスの4つのモテット」の最終曲である。アルトパートソロによってキリストの誕生が告げられ、人々が口伝るように同じ言葉を繰り返す。楽曲を通じて変拍子であるが、それは言葉の持つリズム感を厳格に落とし込んだ結果であり、裕福な家庭に育ち敬虔な信徒であったプーランクの宗教観を体現していると言える。時折軽妙な転調を見せる遊び心がありつつ、ハ長調の素朴かつ明朗な響きに満ちたファンファーレである。

Hymne à la Vierge

詩 | Roland Bouhéret 曲 | Pierre Villette

O toute belle, Vierge Marie,
Votre âme trouve en Dieu
Le parfait amour
Il vous revêt du manteau de la Grâce
Comme une fiancée
Parée de ses bijoux. Alleluia.

Je vais chanter ta louange, Seigneur,
Car tu as pris soin de moi,
Car tu m'as enveloppée du voile de l'innocence.

Vous êtes née avant les collines
O sagesse de Dieu
Porte du Salut
Heureux ce lui qui marche dans vos traces
Qui apprête son coeur
A la voix de vos conseils. Alleluia.

Je vais chanter ta louange, Seigneur,
Car tu m'as faite, avant le jour,
Car tu m'as fait précéder le jaillissement des sources.

Avant les astres
Vous étiez présente
Mère du Créateur
Au profond du ciel
Quand Dieu fixait les limites du monde
Vous partagiez son coeur
Etant à l'oeuvre avec lui. Alleluia.

O toute belle Vierge Marie.

聖母への讃歌

最も美しい、聖母マリアよ
主はあなたの魂に
完璧な愛を見いだす
主はあなたに恩寵のマントも着せてくれる
宝石で飾られている花嫁のように。アレルヤ

主よ、私はあなたの賛美を歌います
私の面倒を見てくださったから
私を無垢のベールで包んでくださったから

あなたは丘の前で生まれた
神の知恵よ
救済の門よ
あなたの足跡をたどる者は幸せになる
そして、あなたの助言の声に
心を整える。アレルヤ

主よ、私はあなたの賛美を歌います。
日の出の下に私を作ってくださいましたからです。
私を泉の前で作ってくださいましたからです。

星の下に
あなたは存在する、
創造主の母よ。
天の深いところで
神が世界の限界を定めたときに
あなたと主の心が一つになり
労苦をともにした。アレルヤ

最も美しい聖母マリアよ。

邦訳：Brian Munguia

解説

ヴィレットは20世紀フランスの作曲家である。彼はパリ音楽院に入学する以前デュリュフレに師事しており、またピエール＝ブーレーズと親交があった。聖母への讃歌は彼の代表作品であるが、シンプルなメロディーラインに対して、それを支える各声部では緻密に設計された半音階が用いられている。聖母マリアへの憧れに満ちた甘美なメロディー、クロマティックなハーモニーは一度聞けば耳に残ることだろう。

1st STAGE 解説：榎原暁仁

2nd Stage

Edition ICOT より —これから歌いたい名曲—

旗 詩 | 四元 康祐 曲 | 森山 至貴

わたしから溢れて
わたしを超えていくもの
気高さへと
心を駆り立てるもの
だれの手にも触れられない
空の青さ

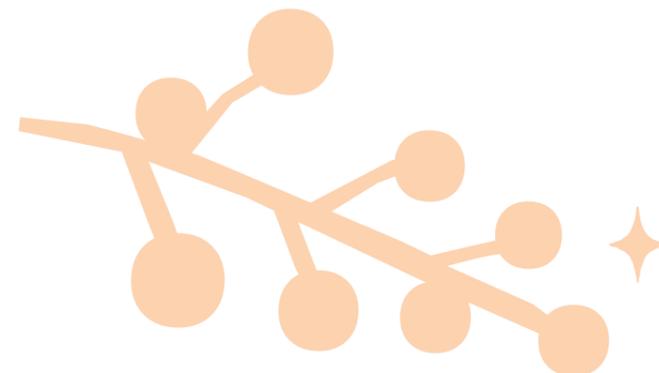
旗を見上げるとき
わたしはひとりでいたい
だれにも強いられずに
自ら己を
真っ直ぐな竹に括りつけて
風に晒されたい

作曲家 より

このたびは第17回定期演奏会の開催、おめでとうございます。拙作「旗」を演奏していただけるとのこと、大変光栄です。

「旗」の作曲当時（だけでなく今もそうですが）、日本社会の同調圧力や排外主義が悲劇的な事件を引き起こし、人々を傷つけているさまに、わたしは怒りを感じていました。そして、声を「合わせて」演奏するしかない合唱は、ともするとたがいに同質性を要求しがちであるがゆえに、それらの悪に染まりやすいとも感じていました。そこから逃れたいとの思いから、「個」であることの清々しさを描いた四元康祐さんの詩に辿り着き、そしてできあがったのが、混声四部でディビジョンもなし、3分ほどのシンプルでまっすぐなこの曲です。二声で短七度の音程を形成する箇所が多く、正確なピッチで歌うのが意外と難しい曲ですが、そこに「他者と馴れ合わず個として各々が生きること、あるべき美しい世界の像を示してほしい」という私なりのメッセージを読み取っていただけたならうれしいです。今日はガイアフィルハーモニッククワイアのみなさんがどんな美しい世界の像を示してくださるのか、とても楽しみにしています。

森山 至貴



T-Outua

詩 | アイロニム イクザーニム 曲 | 山下 祐加

Wásh taugáta utói
Éru kíya wig
Éru kúmor gánaga

Wásh tai wa
Rúie tíki
Ómonit séikot konóa

歌うと

アナグラム解説 詩 | みなづき みのり

私が歌うと
木々は揺れ
雲が流れる

私は
生きている
この世界とともに

作曲者
より

本日、Gaia Philharmonic Choirの皆様には「T-Outua」を演奏していただけますこと、大変嬉しく思っております。

この作品は3年ほど前に作曲し、今年東京国際合唱機構 Edition ICOT から女声版と混声版を出版していただきました。

まずタイトルの読み方ですが、「ティーアウトウア」と読みます。魔法の呪文のような不思議な響きがありますが、詩も少し変わっています。「Wash taugata utoi」というはじめの歌詞を何度か唱えたところ、「Wash」をはじめとする力強いリズムに導かれ、自然と冒頭のメロディが浮かんできました。日本語の歌詞ですと、どうしても単語の高低アクセントに影響されてしまう部分がありますが、今回は強弱アクセントを意識しながら旋律を作曲しました。ここで歌詞の意味をご紹介しますと思います。

「私が歌うと 木々は揺れ 雲が流れる

私は 生きている この世界とともに」

上記の歌詞の意味からインスピレーションを受けて作曲しました。この歌詞の主人公のように、皆様が歌ってくださることで、世界が、自然が呼応し、皆で歌う喜びを感じることを想像しました。混声版と女声版は曲の途中で全く違う部分があります。もし機会がございましたら、聞き比べていただけたら幸いです。

最後になりますが、Gaia Philharmonic Choirの皆様、松下耕先生に、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

山下 祐加

混声合唱のための「四季のうた」より

はるーはっとするはる 詩 | みなづき みのり 曲 | 松本 望

はる はっとするはる はればれするはる はらはらするはる はじけるはる	はなしたくなるはる はだしになりたくなるはる はだかのはる ひっくりかえりたくなるはる ふくらんでいくはる ほっとするはる	ひとがこいしくなるはる ふみしめるはる ほほえんでいるはる はずかしいはる るる、はる
はながさき ひがてり はがしげるはる	はるのひる ひるねをするはる	
はねをのぼして ひろがっていくはる		

あきーあいするきみの 詩 | みなづき みのり 曲 | 松本 望

あき あきらめる あいしてる あきらめる あいしてる あきらめる あいしてる	あなたが きらいになる あなたがきつとわたしをきらいになる あなたにあいたい あなただけががすき あのひ あなたのきもち	あきらめないあき あきあかね きみのあき きみのあき きづき きこえ きもちが みのるあき
あいしている きらい あいしてない きらいじゃない あいしてる きつときらいになる	きのみがじゅくしていくあき みのりのあき あきぞらのみあげるしせんに いろづくあき	

作曲者
より

混声合唱のための「はる」「あき」は、それぞれ別の機会のために2012年と2014年に書かれた作品です。しばらく我が家の奥で眠っていた2曲でしたが、今年東京国際合唱機構より出版していただき、それがきっかけで本日のように演奏されて多くの人に聴いていただけるようになったことを嬉しく思います。

「はる」「あき」のどちらの詩もみなづきみのりさんの『四季のうた』という連作の中の詩です（「なつ」「ふゆ」の詩もありますので、そのうちそちらの2篇にも付曲して、4曲の組曲にしたいと思っています）。

「はる」は、はるにまつわる色々な気持ちが現れる詩に軽やかな3拍子の曲を付けた小品。様々な気持ち、場面に合わせ和音も調性もパッパッと変化していきます。

「あき」は、ちょっとほろ苦いラブソング。「あいしている」からこそ「きらい」になったり、「あなたがきつとわたしをきらいになる」ことへの恐れを抱いたり、強い感情、激しい感情が出てきて、それらはつながっているということ。人の心の揺れ動く様を、8分音符と5連符のせめぎ合いなどから生まれるリズムの揺らぎの中に表してみました。

言葉遊びのような軽やかな詩に乗せて現れる様々や表情や和声、調性の移り変わりをお楽しみいただければと思います。

松本 望

Hinageshino Hanabirano yóni

詩 | えびはら みなみ 曲 | 松下 耕

ひなげしの花びらのように
つつましく生きてゆこう
ひなげしの花びらのように
清らかに生きてゆこう
かなしくも 美しい花よ
われらを あわれみたまえ
ひなげしの花びらにたくす
私の 小さな真実

作曲家
より

2016年の8月末、私は友人のフランス人指揮者、ロイク・ピエールから一通のメールを受け取った。それは、てんかんによって骨折した右肩の手術を受ける数時間前に出されたメールだと書かれていて、私は大層驚いたが、もっと驚いたのは、彼は手術を待つ病院のベッドで、新たなプロジェクトを考案していたことである。

彼は、どうやらエストニアの偉大な作曲家、ヴェリヨ・トルミスに対する敬意を、スカンジナビアのメロディーを新たな発想で作り替えた作品を集めたプロジェクトで表そうとしているのだった。

私は、そのプロジェクトの作曲家の一人に選ばれたわけであるが、私に与えられた仕事は、ノルウェーの聖歌をベースにした作品を作ることだった。

その聖歌とは、「Jeg ser deg, o Guds Lam」というもので、シンプルかつ美しい旋律であった。

静謐な中に生の鼓動を感じるこの聖歌を、私は日本語の歌詞を使って、次のようにイメージを膨らませた。

——冒頭は、ごくシンプルな女声によるユニゾン。続いて、オルガナムのような響きの2声の掛け合いになり、やがてテノールとベースが『降って』くる。肉厚となった4声によるホモフォニーは、調性を変えてさらなる神秘的な空間を作り出す。そこは、人間と自然が醸し出す豊かな空間だ。

私がこの曲を書き上げたのは、2017年の5月。ヴェリヨ・トルミスはすでに帰天していたが、だからこそ、この神秘の世界を表現できたかもしれない、と思っている。

ロイクとマイクロコスモスは、私が思い描く超次元的な世界観を見事に表現してくれた。私が書いた音以上の響きを引き出してくれたのだ。それは、倍音が豊かに、そして確実に鳴っていることを意味している。この、不思議な世界を、多くの合唱団の皆さんにも味わって欲しいと思っていたが、この度 Edition ICOT より出版の運びとなり、今日こうして日本でもライブで演奏されることは、大変に喜ばしく思っている。

松下 耕

あなたと一緒にになにかしたい 初演

詩 | 山崎 修平 曲 | 名田 綾子

あなたへ
あなたと会えたらなにをしよう
朝が来るまで夜の街を歩くのも良い
くだらない話の数々を交わすのも良い
僕はまだ会えたことのない
あなたと会える日はきっと来て
都市の朝のひかりはまだ花を包み
拒まないことを信じている
いま僕はあなたと

映画を撮りたい
中身のない青春映画を撮りたい
演劇をしたい
喜劇が良い笑えなくても良い
何もかも赦してしまうような喜劇が良い
音楽をしよう
ロックバンドも良い
世界は小さな音で良い
楽器はなくても良い
あなたと一緒にになにかしたい
あなたと一緒にになにか壊したい
もしもあなたに会えたなら
さっき壊してしまったことを
あなたと笑いとばしたい

作曲家
より

「あなたと一緒にになにかしたい」は、山崎修平さんの詩との出会いから始まりました。2017年夏、朝日新聞の文芸コーナー〈あるきだす言葉たち〉に掲載されていたこの詩に心を掴まれ、いつか合唱曲にできたらと思いい紙面を大事に取っていました。ほどなくして、私の地元である兵庫県芦屋市の合唱団ボイスフィールドの方から、ぜひ1曲書いてほしいとお話をいただき、それならばぜひ山崎さんのこの詩で書きたいということで作曲がスタート。この詩の、心から湧き上がる弾けんばかりの渴望のエネルギーと、ボイスフィールドの”世界中を歌声の野原にしたい”というスローガンがぴったりマッチするように感じられ、短くとも熱量の高い1曲が出来上がりました。ロックやゴスペル的な要素も入れ、ワールドミュージックのような大らかさとパワーを持った曲です。

奇しくもこの作品が初演予定だった頃、世界中を新型コロナウイルスが席卷し、演奏会は中止・延期を重ねました。そんな中、ご縁をいただき Edition ICOT による楽譜の出版、Gaia Philharmonic Choir の皆さんによる演奏の機会を得ることとなりました。この曲に関係するすべての方に感謝申し上げます。今改めて「あなたと一緒にになにかしたい」と思えること、それが実現できる喜びや尊さを感じ、この曲が歌われ多くの方と共有できることを心から嬉しく思います。

名田 綾子

作曲者の皆様の楽曲紹介動画が
こちらの QR コードより
ご覧いただけます。



3rd Stage

混声合唱とピアノのための組曲

ある真夜中に 詩 | 瀬戸内寂聴 曲 | 千原 英喜

解説

この組曲は、最終曲「ある真夜中に」が2006年のNHK全国学校音楽コンクール高等学校の部の課題曲として作曲され、その後指揮者、清水敬一氏の提案により組曲となった作品である。作曲者は、この組曲は第1曲「迷いと苦悩」、第2曲「愛する幸せと感謝」、第3曲「祈り」、第4曲「時空を超えた愛」の四つの愛の階段（Steps）から成り、寂聴先生のひとつひとつが渦巻く星雲のように謎めき、交響し、エロスの香りを放って私を魅了してやまないと述べている。

1. 愛から悩みが生まれ

愛から悩みが生まれ	それだから	愛することを	愛する人も憎む人も
愛から恐れが生まれる	愛する人を	離れたならば	いない人には
	つくるのはおやめなさい	憂いも悩みも	悩みの絆が生まれない
	愛する人を失うのは	消えはてる	
	とても不幸なことだから	恐れなんて	
		どこにもなくなる	

解説

詞は釈迦の言葉を書いたお経のなかでも、最も古い時代のお経である『法句経』を作詞者、瀬戸内寂聴氏が訳したものである。お釈迦さまは、女たちに色目を使われる弟子に「見るな、口をきくな」と説く。見れば女の魅力に心がかり乱される。もし見ても口をきかなければ、行きずりで無縁の人ですむが、言葉をかわせば、互いの心が通じあってしまう。愛は生れると同時に苦しみを生む。それはすべて執着によるからであり、愛する人に会わないのは苦しい。しかし、それでも愛してしまうのが人間である。作曲者はベートーヴェンの「運命」のモチーフにより、突然にわが身に落ちる雷のような『愛』を表現している。

2. この星に生まれて

あなたに出逢えたから	あなたを愛したから	それでも
この星に生まれてよかった	この星に生きてよかった	この星に生まれてよかった
あなたに出逢えたから	あなたを愛したから	あなたに出逢えたから
愛する喜び知らされた	淋しさや悲しみにも出逢った	愛する幸せ溺れるほど恵まれた
		生きる喜びあふれるほど贈られた

解説

作詞者は、全国各地で法話を行い弱者に寄り添い、愛することの大切さを説いてきた。『人は、人を愛するために、愛されるために、この世に送り出されたのだと最期に信じる』と生前書き残している。作曲者はこの作品を、『この星に生まれてよかった』という言葉が、慈しむように各声部で繰り返し、応えながら歌いゆくラヴソングだと書いている。幾度も繰り返される転調が大変美しい作品である。

3. 寂庵の祈り

幸せな時にはありがとう
 苦しい時には力を下さい
 淋しい時には聞いてください
 いつも
 (地球の)すべての人が
 幸福で平和で
 ありますように

解説

この詞は、作詞者の著書『美しいお経』の巻頭に書かれている。『寂庵』とは作詞者が京都、嵯峨野に開いた寺院である。ここで法話の会や写経の会を開いていた。作詞者には本当の修羅場を経験してきたからこそ持っている優しさや温もりがあり、寂庵では「もっといいことが待っているから大丈夫」と、訪れたたくさんの人たちの背中を押し励ました。静かな祈りのコーラルに始まり、やがて高らかな平和のトランペットの響きとなる。聴く者の胸に迫る名曲である。

4. ある真夜中に

ある真夜中	ある真夜中
どこかの星の熱いため息が	どこかの星の熱いため息が
花びらになって降ってきた	雪になって降りしきった
花びらは舞いながらささやいた	雪は身を揉みながら歌った
わたしはここにいます	わたしはここにいる
そして あなたがそこにいてくださる	そして あなたがそこにいてくれる
ああ 何というしあわせ	ああ 何というよろこび
たとい永遠にあなたの額に	たとい永遠にあなたの唇に
たどりつけなくても	たどりつけなくても

解説

この曲の初演をつとめた指揮者、松下耕と合唱団の稽古に訪れた作詞者は、学生たちに「あなたたち、いっぱい愛しなさい。愛とはあげっぱなしの愛であり、見返りを求めちゃダメよ」という言葉をかけてくださった。その言葉の内側には、幼い娘を捨て恋人のもとへ走り、作家の道を選んだ作詞者の悔いと、とてつもない悲しみや痛みがある。作曲者は、この作品を『至極のプラトニック・ラヴ、究極のエクスタシーだ』と語っている。究極の愛、無償の愛を謳った情熱的な作品である。

最後に、今年11月に99歳で亡くなった瀬戸内寂聴さんのご冥福をお祈りいたします。

3rd STAGE 解説：蟹江春香

参考／集英社文庫『寂聴 生きる知恵 法句経を読む』
 カワイ出版『混声合唱とピアノのための組曲 ある真夜中に』

PROFILE
プロフィール



松下 耕 Ko Matsushita

音楽監督・常任指揮者

1962年東京生まれ。作曲家、合唱指揮者。国立音楽大学作曲学科首席卒業。卒業後、ハンガリーに渡り、合唱指揮法及び作曲法を学ぶ。レメーニ・ヤーノシュ、エルデイ・ペーテル、モハイ・ミクローシュ他に師事。作曲家として生み出している作品は、合唱曲を中心として多岐にわたり、それらの作品は世界各国で広く演奏されており、同じく楽譜も、国内外で出版が相次いでいる。これまでに、国内およびポーランド、中国、台湾において個展が開催された。深圳では深圳交響楽団によりオーケストラ作品の初演も行われた。

同時に、東京合唱アライアンス〈耕友会〉芸術総監督として、混声・男声・女声・児童合唱計13団体の指揮を務めている。各合唱団は精力的な活動を繰り広げ、ヨーロッパの数々の国際合唱コンクールにおいて、グランプリ等優秀な成績をあげている。また、関西耕友会、台湾・台北メールクワイアの音楽監督も務めている。耕友会以外では、国内で2団体の常任指揮者に就任しているほか、各国の合唱団の客演指揮者として招聘されている。

2005年、合唱音楽における国際的かつ優れた活動が認められ、「ロバート・エドラー合唱音楽賞」をアジア人で初めて受賞した。現在、ヨーロッパ、アジア各国で国際合唱コンクールの審査員として、国際作曲コンクールの審査員として、また講習会の講師としても活躍中である。

一般社団法人東京国際合唱機構代表理事。耕友会芸術総監督。軽井沢国際合唱フェスティバル総合音楽監督。東京国際合唱コンクール総合プロデューサーおよび芸術監督。日本国際合唱作曲コンクール芸術監督。アジア合唱協会理事。イタリア合唱指揮者協会名誉会員。Interkultur World Choir Council 日本代表評議員。東京都合唱連盟副理事長。全日本合唱連盟青少年委員。日本作曲家協会会員。日本合唱指揮者協会会員。国際コグーイ協会会員。神戸女学院大学特別客員教授。



前田 勝則 Katsunori Maeda

ピアニスト

東京学芸大学教育学部芸術課程音楽専攻ピアノ選修卒業。東京藝術大学大学院音楽研究科楽器専攻（ピアノ）首席修了、修了時にNTTドコモ奨学金を授与される。

ピアノを徳万良子、石橋史生、植田克己の各氏に、和声法とソルフェージュを土田英介氏に、歌曲伴奏法を星野明子氏に師事。日本ピアノ教育連盟、NHK 洋楽オーディション、東京文化会館新進音楽家デビューコンサート、日本室内楽コンクール、吹田音楽コンクール、ABC 新人コンサート、かずさアカデミア音楽コンクール、日演連推薦／新人演奏会等、コンクール、オーディションにて多数受賞。

団員募集中

こんなあなたに!

- 松下耕の指揮で歌ってみたい
- 大学卒業後の合唱団を探している
- 久々に合唱を再開したい
- プロの声楽家から発声を学びたい
- 国内外に演奏旅行したい
- 混声合唱の様々な名曲に触れたい

練習日 | 毎週日曜日 13-17時

団費/月 | 一般 3,500円 学生 1,500円

会場 | 東京都内公共施設

見学お問合せ | gaiaphilharmonicchoir@gmail.com

<http://gaia2001.com>

Facebook | [fb.com/GaiaChoir](https://www.facebook.com/GaiaChoir)

Twitter | @GaiaChoir

Members

Soprano

飯室遥香
菊地真生子
田島萌々夏
田中優衣
寺西こと音
塚原美奈子
長嶋由紀子
松浦優里
森美和子

Alto

相田歩
沖田知恵美
蟹江春香
高橋佳代子
戸谷登貴子
野元一葉

Tenor

坂井聡大
榊原暁仁
富澤佳央
根本健一
山中拓哉

Bass

木崎誠史
須藤圭祐
田中泰志
永田秋人
中村俊幸
深谷章史
吉本宗一郎

《新型コロナウイルス感染拡大予防対策にご協力をお願い致します》

- ご入場の際は、手指の消毒をお願い致します。
- 会場内、観覧にあたっては、マスクの常時着用をお願い致します。
- お名前とご連絡先と座席番号を頂戴いたします。
いただいた個人情報は厳重に取り扱い、演奏会后1ヶ月保管した後、適正に破棄いたします。
- ロビーや化粧室ではお客様同士の間隔を開けていただき、会話はお控えください。
- 終演時のブラボー等のお声掛けはご遠慮ください。
- 場内の扉を開放するとホール内の換気能力が下がるため休憩時間も開放いたしません。
- 公演後2週間以内に感染が疑われる症状が発生した場合、
主催者 (gaiaphilharmonicchoir@gmail.com) へご連絡をお願い致します。

Special Thanks

舞台監督 | 安藤嘉規

受付チーフ | 高橋進

チラシ・パンフレット作製 | 大西裕菜

写真撮影 | 長谷川恭子

ビデオ撮影 | 中部クリエイティブ